

一般社団法人 日本呼吸療法医学会
2022 年定時社員総会 議事録

日 時：2022 年 8 月 5 日（金）15：30～17：30

会 場：パシフィコ横浜会議センター 3 階 301・302

（〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1）

【開 会】 挨拶：藤野裕士 理事長 ／ 讃井将満 会長

- ・代議員 111 名中、出席者 66 名と委任状提出者 38 名の合計が 104 名となり、本総会の成立に必要な過半数の定足数を満たしていることが報告され、開会が宣言された。
- ・藤野理事長ならびに讃井会長より挨拶があった。

I. 役員選出（信任）

《所信表明》

- ・藤野理事長が選挙管理委員を布宮 伸先生と大下慎一郎先生に委嘱した。
- ・理事立候補者7名（内田寛治先生、大塚将秀先生、志馬伸朗先生、竹内宗之先生、竹田晋浩先生、平井豊博先生、藤野裕士先生）と、監事立候補者2名（川前金幸先生、西田 修先生：50音順）が報告された。
- ・理事立候補者7名、監事立候補者2名の所信表明が行われた。立候補者数はいずれも定数内であったため挙手で信任を問い、賛成多数で承認された。
- ・総会審議を一時中断して臨時理事会を開催する旨が理事長より宣言され、新理事7名、新監事2名により臨時理事会が開催された。

《臨時理事会》

- ・定款ならびに定款施行細則にもとづき、新理事長の選出を行った。理事選挙が行われなかったため、新理事7名全員を選挙権者・被選挙権者とし、投票を行った結果、藤野裕士理事が選出された。
- ・続いて職種指定理事の選出を行い、石井宣大代議員（臨床工学技士）、佐藤暢一代議員（医師）、玉木 彰代議員（理学療法士）、茂呂悦子代議員（看護師）の4名の推薦が決定した。

《定時社員総会再開》

- ・新理事長が発表され、職責指定理事（近藤康博会長、中根正樹副会長、第47回会長予定者）、職種指定理事、監事を含めた新役員体制が承認された。藤野新理事長から就任挨拶があった。

II. 新代議員紹介

《新 代議員 14 名》

- ・新代議員 14 名（50 音順）の紹介を行った。

1 小野寺 悠 Dr 山形大学医学部 麻酔科学講座

- 2 河合 佑亮 Ns 藤田医科大学病院 看護部 ICU
- 3 佐藤 暢夫 Dr 東京女子医科大学医学部 集中治療科
- 4 島谷 竜俊 Dr 広島大学大学院 救急集中治療医学
- 5 鈴木 圭 Dr 三重大学医学部附属病院 救命救急・総合集中治療センター
- 6 竹中 隆一 Dr 大分大学医学部附属病院 高度救命救急センター
- 7 長嶺 祐介 Dr 横浜市立大学大学院 医学研究科 生体制御・麻酔科学
- 8 中村 智之 Dr 藤田医科大学医学部 麻酔・侵襲制御医学講座
- 9 濱口 純 Dr 東京都立多摩総合医療センター 救命救急センター
- 10 平澤 純 PT 公立陶生病院 中央リハビリテーション部
- 11 南 卓馬 Dr 京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科
- 12 安田 英人 Dr 自治医科大学附属さいたま医療センター 救急部
- 13 矢野 武志 Dr 宮崎大学医学部 麻酔生体管理学分野
- 14 山口 嘉一 Dr 横浜市立市民病院 麻酔科

Ⅲ. 報告事項

1. 定時社員総会および理事会議事録の確認・承認（藤野理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告され、承認された。
- ・業務量の増加により事務局委託費を増額したこと、『ECMO・PCPS バイブル』の印税収入があったことなどが報告された。

2. 事務局からの報告（大塚理事）

1) 会員動向

- ・2022年8月1日時点の会員数が以下のとおり報告された。
一般会員：1,896名（Dr 1,129、Ns 271、CE 339、PT 122、他 35）
賛助会員：17社／年間購読契約：10件
- ・会員動向について、増加傾向にあり、医師会員の増加が全体を牽引している。看護師・臨床工学技士に減少傾向が見られ、理学療法士は横ばいとなっている。
- ・一般会員の会費納入状況は、2020年度が97.2%、2021年度が92.5%となった。

2) 代議員の所属変更

- ・2021年8月～2022年7月における代議員の所属変更を確認した。

3. 定款施行細則・規則変更の報告（大塚理事）

1) 監事の要件：細則第9条・第11条

- ・監事は理事会を監査する立場として、理事長や会長などの要職の経験が求められており、監事の要件を、①代議員またはその経験者で、②呼吸療法専門医資格を有し、③立候補届出時点で68歳未満、と変更し、今回の役員選挙から適用したことが報告された。

2) 「内規」の呼称

- ・現在の内規は対外的な定義・公表の側面が強く、「理事会・委員会規則」「各委員会規則」にそれぞれ変更された。

3) セミナー委員会規則：第1条・第3条

- ・オンラインセミナーが導入されるようになり、現状に即した形に変更された。

4. 次期社員・委員会体制の報告（大塚理事）

1) 2022～2024年 社員（代議員）名簿

- ・社員（代議員）名簿を確認した。

2) 委員会名簿

- ・5委員会の委員長交代（セミナー、ECMO プロジェクト、利益相反、社会保険、学術集会あり方検討）と、各委員会の委員交代について、理事会で確認・承認したことが報告された。

5. 学術集会準備状況

1) 第44回学術集会（讃井会長）

2022年8月6日（土）・7日（日）パシフィコ横浜ノース

「Break Through 扉を開けよう」

- ・現地参加約800名、参加登録約1,200名を得て、2日間の学術集会を開催できる見込みであることが報告された。

2) 第45回学術集会（近藤副会長）

2023年8月5日（土）・6日（日）ウインクあいち（名古屋）

「つなぐ ～ニューノーマルへ～ Connecting the Dots」

- ・次回学術集会のポスター・チラシが完成し、学術集会会場で掲載・配布を行う。プログラムについては委員を募るとともに代議員からも意見を募集する予定である。

3) 第46回学術集会（中根正樹先生）

2024年6月28日（金）・29日（土）天童ホテル（山形）

- ・職責指定理事として就任された中根副会長より、上記の日時・会場で開催を予定していることが報告された。

6. 各委員会報告

1) 将来計画・財務委員会（藤野委員長）

- ・持続可能な学会組織の構築を目指して活動を行い、若手の積極登用による代議員数の維持（111名）、財務改善（内部留保1億円）などの成果が報告された。
- ・他学会との連携を引き続き検討し、本会の特長を活かした学会の柱となる事業の構築や、学術研究の推進を進める方針を確認した。

2) 人工呼吸編集委員会（竹内委員長）

- ・『人工呼吸』第38巻第2号（2021年11月）、第39巻第1号（2022年5月）の発行と、第39巻第2号（2022年11月）、第40巻第1号（2023年5月）の企画案が報告された。
- ・2021年度は投稿数が21件で、前年度の23件と同水準だった。2022年度は現時点で8件の投稿があった。
- ・2022年度『人工呼吸』論文賞授賞者として3編を推薦し、理事会で承認された。第44回学術集会で表彰を行う。

- ・ユーザーレポート・広告の掲載状況は、第 37 巻（2020 年度）がそれぞれ 9 社・2 件）、第 38 巻（2021 年度）がそれぞれ 8 社・2 件という結果となった。
 - ・投稿規定に、投稿時には“責任著者”（corresponding author）を明記すること、参考文献において抄録は発行後 5 年以内のものに限る、とする 2 点の改訂を行った。
 - ・過去の機関誌『人工呼吸』の全記事を、第 1 巻からすべてスキャンしホームページ上に公開した。今後、発行から 1 年が経過した依頼論文についても J-Stage で順次公開を行う。
 - ・用語集の改訂は、Ad hoc 委員会を設置し、編集委員長の竹内宗之先生を Ad hoc 委員長として作業を進めていくことが報告された。
- 3) 代議員審査委員会（高橋委員長）
- ・2022 年 3～4 月に受け付けた 2 年に一度の代議員〈更新・新規〉審査の結果、更新 96 名、新規 14 名、合計 110 名の次期代議員候補者を選出し、理事会で承認されたことが報告された。
- 4) 小児在宅人工呼吸検討委員会（寺澤委員長）
- ・委員・著者の尽力により『小児在宅人工呼吸療法マニュアル第 2 版』が発行された（B5 判、288 頁程度、カラー、5,000 円〈税別〉、2,000 部）。第 44 回学術集会の書店ブースでも販売される。
 - ・2,000 部完売時には 80 万円の印税収入が見込まれている。一方、350 部を学会が先行買取しており（175 万円〈税別〉）、購入を希望する代議員は事務局に問い合わせるよう案内があった。
- 5) セミナー委員会（平尾委員長）
- ・2021 年度は、第 50 回日本呼吸療法医学会セミナー（オンライン）を開催した。
 対象：メディカルスタッフ
 概要：期限内に全講義（35 分×9 講義）を視聴（早送り、飛ばし見防止機能）
 視聴後、確認テスト合格（合格するまで再解答）をもって修了証を発行
 担当：（プランナー）春田良雄 委員
 期間：2021 年 6 月 1 日～7 月 4 日（受付：3/22～4/19）
 申込：568 名（全講義視聴完了者 549 名 96.7%、受講修了証 540 名）
 点数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与
 受講料：7,000 円（税込、テキスト代含む）
 収支：受講料収入 361 万円、支出 274 万円、総計 874,924 円の黒字
 - ・2022 年度は、以下の 3 セミナーを計画している。
 - ・第 51 回日本呼吸療法医学会セミナー（オンライン）
 対象：メディカルスタッフ、定員 800 名
 講義：セミナー委員、9 講義（1 講義あたり 35～50 分）
 担当：（プランナー）大藤 純 委員
 日程：講演依頼 2/1～3/31、受付期間 4/1～5/20、受講期間 6/1～7/31
 受講料：7,700 円（税込、テキスト代含む）

点数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与

・第 1 回医師向けセミナー**Refresher** コース（オンライン）

対象：呼吸療法専門医試験を受験する水準の医師

講義：セミナー委員など、6 講義

担当：（プランナー）方山真朱委員

教材：『呼吸療法専門医テキスト』を活用

目的：筆記試験と本セミナーを連動させて双方を活性化

講師がテキストの担当項目を評価し改訂に役立てる

日程：講演依頼 6/1～7/31、受付期間 8/1～9/20、受講期間 10/1～11/30

受講料：12,100 円（税込）、集客目標 300 名

・第 12 回医師向けセミナー**Basic** コース（オンライン）

対象：呼吸管理を専門としない医師・研修医など人工呼吸器の初学レベル

講義：セミナー委員など、7 講義

担当：（プランナー）長嶺祐介 委員

内容：前回（2019 年 9 月）の Basic コースと同じ企画

日程：講演依頼 10/1～11/30、受付期間 12/1～1/20、受講期間 2/1～3/31

受講料：12,100 円（税込）、集客目標 300 名

・2022 年度からサンプラネット社にオンライン運営・テキスト製作発送を委託することが報告された。

・事務局業務を、セミナー委員会事務局から本体事務局に集約することとした。また、上記の委託先変更にもなう業務内容の変化にあわせて、1 セミナーあたりの受託費を従来の 70 万円からメディカルスタッフ向け 15 万円、医師向け 10 万円へと変更した。

6) チーム医療推進委員会（横山委員長）

・今後の活動の方向性が検討課題となっており、引き続き議論を行っていくことが報告された。

RST プロジェクト（大塚理事）

・現時点で RST 認定登録施設数が 40 施設であることが報告された。

・認定施設をホームページで公開した。学術集会会場でブースを出展するなど、引き続き登録募集を呼びかけるとともに、登録情報の確認・解析を行っていく。

7) 安全対策・危機管理委員会（中根委員長）

・人工呼吸器の作動停止事例情報（2021 年 7 月～2022 年 6 月）について、以下のとおり報告された。機種による偏りは認められなかった。

→情報提供数：5 件（実害なし 3 件、死亡 0 件、後遺症あり 0 件）

（アラーム鳴動 2 件、停止に気づいたもの 3 件）

・次回第 45 回学術集会（2023 年 8 月）で、停止事例にかかる年次推移などを委員会報告として発表予定である。

・医療安全全国共同行動 2022 年度定時社員総会（6/30）に中根委員長・内田理事が出

席し、本会の活動報告を行った。

- ・『人工呼吸器安全使用のための指針（第2版 2011年）』の改訂を予定している。

8) 専門医委員会（佐藤暢一委員長）

- ・呼吸療法専門医・研修施設の2021年度〈更新・新規〉認定結果が報告された。認定数は2021年度末時点で、施設119・専門医272名となった。
- ・2021年度の筆記試験は受験者37名中28名が合格した。客観問題15問については識別指数を算出し、全問題で0.2以上となった。正答率も20%を下回るものではなく、どの問題も適正範囲に収まる結果となった。
- ・研修施設不在県が1県まで減少した（和歌山）。
- ・第44回学術集会で、2コマが専門医更新講習として設置された。
- ・『呼吸療法専門医テキスト2022』は間もなく会員専用ページに公開予定である。
- ・本年度の筆記試験は12月3日（土）に新大阪で実施する。客観問題20問（5択）＋記述問題1問（4題から選択）の合計点6割以上を合格とする。

9) ECMOプロジェクト委員会（大下委員長）

- ・沖縄支援（2021年6月）、東京支援（2021年8～9月）の期間中は、毎日Web会議を開催し、医療状況・医療ニーズ・支援計画について審議を行った。その他、COVID-19発生状況、支援計画、講習会計画について、適宜Web会議を実施した。
- ・日本ECMOnetとの協働で、人工呼吸/ECMO講習会を全国17都道府県で計32回開催した（2021年7月～2022年3月）。
- ・前年度に続き、電話・インターネット相談窓口を開設し（24時間対応、土日祝含む）重症COVID-19患者の診療相談・出張往診等を実施した。電話対応件数は110件であった（2021年4月1日～2022年3月31日）。
- ・重症COVID-19症例のレジストリー（CRISIS）運営・維持を行った。全国ICUの空床状況をリアルタイムで管理し人工呼吸/ECMOを使用した患者の転帰調査となっている。症例登録の簡便化を検討中。
- ・ECMOプロジェクト委員会・日本ECMOnetより、論文を執筆し発表した。
- ・日本救急医学会ECMOネットワーク特別委員会、日本集中治療医学会ECMOプロジェクト委員会、本委員会の3委員会で連携し、日本のECMO治療体制向上に向けて協働する。

10) 利益相反委員会（佐藤大三委員長）

- ・日本医学会のCOI表示を注視し、本会の規定を確認した。
- ・引き続き、日本医学会のCOI表示を注視していく。

11) 社会保険委員会（陳 委員長）

- ・内保連の加盟状況を以下のとおり確認した。
 - ①加盟認定：2018年度より加盟
 - ②代表委員：陳委員長、山田委員、志馬理事の3名を登録
 - ③診療領域別委員会：01. 検査関連委員会 03. リハビリテーション関連委員会
10. 呼吸器関連委員会 20. 在宅医療関連委員会

- ・令和3年度第2回診療報酬調査専門組織（医療技術評価分科会）が2022年1月18日に行われ、「D222 経皮的血液ガス分圧測定 1,2 及び算定要件（1）イの修正」については「別途評価を行うべき根拠が十分に示されていない」として、今回の改定では対応を行わない技術となった。
 - ・2024年度診療報酬改定要望を8月末まで受付中であることが報告された。
- 12) 倫理委員会（志馬理事）
- ・第43回学術集会において、ワークショップ「人工呼吸に関する倫理的問題—事例をもとに一」を委員会として実施した。
 - ・倫理検討症例登録について引き続き検討を行う。
- 13) 学術集会あり方検討委員会（西田委員長）
- ・抄録アプリについて、理事長、各会長とで審議を行い、第44回学術集会から各回の抄録を蓄積できる本棚機能を備えたプランを採用することとした。初回の経費の一部は学会本体が負担し、次回以降のランニングコストは各会長が負担する。
- 14) 学術研究推進委員会（志馬委員長）
- ・RedCapについては大阪大学が所有するアカウントを利用し、代表者を藤野理事長とする。後任も阪大で責任者を立て、継続利用できる体制を取る。
 - ・VAEに関する多施設共同前向き観察研究では1,000例を超える症例登録があり、第43回学術集会で中間解析を発表した。
 - ・COVID-19関連では、内閣府SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」研究における新型コロナウイルスの治療薬・ワクチンの開発に資する「データ連携基盤」の構築プロジェクトに参加している。
 - ・High flow nasal cannulaにかかる近藤理事の研究も同時に進行中。
 - ・今後の活動として、複数施設の参画を得て、企業からの寄付金を各施設に分配するプロジェクトの立ち上げを1つの形として検討中。
- 15) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ（尾崎委員長）
- ・2020年度から、改訂第2版の制作を目的とした新たなワーキンググループを始動し6年以内の改訂を目指している。
 - ・改訂第2版の制作において、項目に打診・聴診・小児を加える。また音声映像についても検討を行う。ただし財源に限りがあり適切な予算の見積を行うこととした。
- 16) 気管吸引ガイドライン改訂ワーキンググループ（中根委員長）
- ・2013年に発行された標記ガイドラインの改訂に向けて、文献レビューや検索、内容解釈、統計解析などを担当する協力委員の最終選考をワーキンググループ（WG）で行っている。
 - ・今回はMindsの診療ガイドライン作成指針に沿ってCQから再構成して進める方針とし、CQの設定や本文の執筆などはWG委員が担当する。
 - ・役割分担を決定した後、診療フローとCQ&PICOを作成し、段階的に評価委員の人选・SR委員の割り当て、という手順で進める予定である。

17) ARDS 診療ガイドライン作成統括委員会（讃井委員長）

- ・英語版を日本呼吸器学会・日本集中治療医学会の英文誌に投稿し、7 月中の掲載を進めている。フルバージョン＋患者・家族のための手引き（PDF）を真興交易社にて制作し 3 学会のホームページより公開予定である。
- ・また、和文の委員会報告が 3 学会の各学会誌に掲載されたことが報告された。

IV. 審議事項

第 1 号議案 2021 年度事業報告および決算書類承認の件（大塚理事、川前・橋本監事）

＜収 入＞

- ・年会費：会員数の増加、納入率の改善などにより、前年度より 86.3 万円の増となった。年度内の納入率は約 89.2%となり、未収金は 177.8 万円となった。
- ・事業費：年 3 回の開催を予定していたオンラインセミナーが 1 回のみとなり、予算より 6,363,635 円減となった。
- ・広告費：機関誌 1 号は広告 1 社・ユーザーレポート 4 社、2 号は広告 1 社・ユーザーレポート 5 社となった。バナー広告に 1 社/年の申込があり、24 万円を計上した。
- ・機関誌販売：雑誌販売は 5 冊、別刷販売は 1 社 30 万円増、文献使用料・許諾料は 497,046 円減となり、前年度より 203,019 円減となった。
- ・当期収入は 80,306,946 円、学術集会関連を除くと 25,089,656 円となった。予算より 5,260,325 円減となるが、セミナー関連まで除くと 1,103,310 円増となる。

＜支 出＞

- ・機関誌等発行費：前年度より機関誌が合計 54 頁減となり、313,080 円の減となった。
- ・事業費：セミナーをオンラインで再開し、全体としては前年度より 1,030,194 円の増となった。
- ・委員会費：委員会全体の活動は前年と大差なく、ARDS 診療ガイドラインの制作費増により、前年度より 545,244 円の増となった。
- ・理事会費：本年度はすべての理事会が Web 会議方式となり、前年度より 200,455 円の減となった。
- ・社員総会費：電信による社員総会開催により、前年同様経費はかからなかった。
- ・当期支出合計は 68,420,971 円、学術集会関連を除くと 16,498,228 円となった。
- ・次年度繰越利益は 102,198,519 円となった。

＜収支合計＞

- ・単年度収支は 11,885,975 円の黒字、学術集会を除いても、8,591,428 円の黒字となった。

＜監査報告＞

- ・川前監事・橋本監事から、会計監査を行い、適切に運用されていることを確認した旨が報告された。
- ・以上、2021 年度決算について、出席した社員の過半数の賛成を得て承認された。

第2号議案 2022年度事業計画および収支予算の件（大塚理事）

<収 入>

- ・会費収入：2022年5月1日時点の会員数にもとづき計上した。
賛助会員が17社に増え、その分を計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年1回（800名）、医師向けセミナーを年2回（600名）として、参加費収入を計上した。
- ・広告収入：1号の広告・ユーザーレポート掲載料は実費を、2号は見込額を計上した。
- ・書籍等：『ECMO・PCPS バイブル』の印税70万円を計上した。
- ・学術集会：会長試算による予算案どおり計上した。
- ・以上、当期収入予算は106,839,500円、学術集会関連を除くと32,134,500円となった。

<支 出>

- ・機関誌：1号の発行諸経費にもとづき計上した。J-Stage 登載費用として、本年度の投稿論文20編を見込んで14万円を別刷印刷代等の項目に計上した。
- ・書籍費用：小児在宅第2版の350部買取額を計上した。
- ・事業費：医学会セミナーを年1回、医師向けセミナーを年2回として、セミナー予算にもとづき計上した。
- ・委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。
- ・学術集会：会長試算による予算案どおり計上した。
- ・専門医等：『呼吸療法専門医テキスト2022』の編集費などを計上した。
- ・雑費：過去の機関誌PDF化・公開費用を見積にもとづき計上した。
- ・その他：理事会費・交際費・社員総会費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・以上、当期支出予算は100,228,300円、学術集会を除くと23,245,000円となった。

<収支合計>

- ・単年度の収支は約660万円の黒字予算となることが報告された。
- ・以上、2022年度予算について出席した社員の過半数の賛成を得て承認された。

第3号議案 第47回（2025年）学術集会会長候補者選任の件（藤野理事長）

- ・第47回学術集会会長について、出席した社員の過半数の賛成を得て内山昭則代議員の会長選任ならびに職責指定理事として次期役員への就任が承認された。

V. 名誉会員推戴式

- ・今期をもって任期満了となった代議員のうち、尾崎孝平先生、久木田一朗先生、橋本 悟先生、陳 和夫先生の4名が名誉会員に推戴されたことが報告され、藤野理事長から推戴状が授与された。

【閉 会】

- ・ 藤野理事長より閉会宣言があった。